

価格.com、2016年「冬のボーナス」に関する調査結果を発表

推定支給額は62.3万円、昨年比+1.7万円。2期連続で増加！

使い道では、買い物や国内旅行への消費額が増える

新製品が注目される「ゲーム機」「ブルーレイレコーダー」などの購入意欲が上昇

～大きな支出は控えめも、今冬のボーナス商戦はやや明るい兆し～

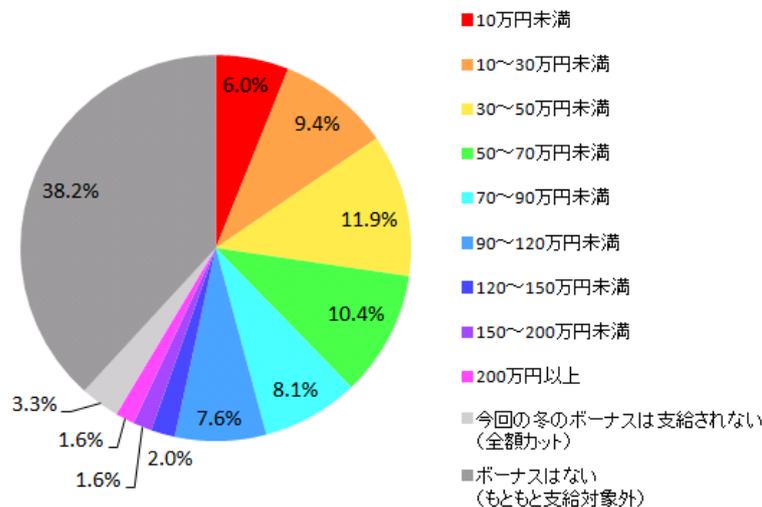
カカクコムが運営する購買支援サイト「価格.com(カカクドットコム)： <http://kakaku.com/>」では、2016年の「冬のボーナス」に関するアンケート調査を実施しました。結果を一部抜粋してお届けします。

【結果ダイジェスト】

- 推定支給額：平均62.3万円（昨年比1.7万円増）。若い世代ほど増加傾向
- 業種別：業種により明暗が分かれる。「金融業」は直近のダウントレンドに歯止め
- 勤務先の規模別：従業員300人以上の大企業で軒並み増加
- 自由に使える金額：支給額は増えても、自由に使える金額は大きな変化なし
- ボーナスの使い道と平均消費金額：使い道トップは引き続き「貯金」218,452円。
「商品・サービス購入」「国内旅行」は金額増
- 冬のボーナスで購入したいもの：「洋服・ファッション関連」（17.7%）がトップ。
パソコン関連やゲーム機、ブルーレイレコーダーなどが好調

冬のボーナス推定支給額：62.3万円。2期連続で増加傾向

2016年冬の推定支給額は全体平均で62.3万円。昨年比1.7万円（2.8%）プラス、今夏比1.4万円（2.3%）プラスで、2期連続の増加となりました。年代別に見ると、若い世代ほど支給額が増加しています（図1-2）。昨冬に減少が見られて以降今夏も停滞気味でしたが、今回はやや回復傾向といえそうです。

【図1-1 2016年冬のボーナス推定支給額（全体）】

【図1-2 冬のボーナス推定平均支給額 性別・年代・家族構成別（税込金額）】

		2016年冬 (万円)	2015年冬 (万円)	増減(万円)	前年比
全体平均		62.3	60.6	1.7	2.8%
性別	男性	63.7	61.5	2.2	3.6%
	女性	42.9	48.4	-5.5	-11.4%
年代別	20代	39.9	35.5	4.4	12.4%
	30代	51.0	46.4	4.6	9.9%
	40代	60.8	58.7	2.1	3.5%
	50代	72.6	72.1	0.5	0.8%
	60歳以上	46.7	48.9	-2.2	-4.6%

業種別・勤務先規模別：明暗が分かれる結果に

業種別にみると、「金融業」は前年比マイナス1.7%ですが、今夏（79.8万円）に比べると、わずかに上回り、3期連続の減少傾向にようやく歯止めがかかる結果となりました。いっぽうで、「公益法人・財団法人」は前年比マイナス10.5%と、今夏（58.6万円）に引き続き減少傾向にあり、業種によって明暗が分かれる結果となりました（図1-3）。なお、勤務先の規模別では、大企業の支給額が軒並み増加しており、今夏の減少傾向から回復していると読み取れます（図1-4）。

【図1-3 冬のボーナス推定平均支給額 業種別（税込金額）】

		2016年冬 (万円)	2015年冬 (万円)	増減 (万円)	前年比
全体平均		62.3	60.6	1.7	2.8%
業種別	金融業	80.6	82.0	-1.4	-1.7%
	国家・地方公務員	74.8	71.3	3.5	4.9%
	製造業	70.5	66.5	4.0	6.0%
	ソフトウェア・情報サービス業	59.0	62.9	-3.9	-6.2%
	公益法人・財団法人	52.6	58.8	-6.2	-10.5%
	医療業	57.9	56.8	1.1	1.9%
	卸売・小売業	46.9	47.0	-0.1	-0.2%
	サービス業	44.2	41.8	2.4	5.7%

【図1-4 冬のボーナス推定平均支給額 勤務先規模別（税込金額）】

		2016冬(万円)	2015冬(万円)	増減(万円)	前年比
全体平均		62.3	60.6	1.7	2.8%
勤務先規模別	50人未満	40.9	40.3	0.7	1.6%
	100人未満	43.0	45.5	-2.5	-5.4%
	300人未満	54.2	47.5	6.7	14.0%
	500人未満	61.1	59.2	1.8	3.1%
	1000人未満	62.9	59.4	3.5	5.9%
	5000人未満	80.5	73.8	6.7	9.1%
	5000人以上	90.0	87.7	2.3	2.7%

※従業員300人未満の企業を中小企業、従業員300人以上の企業を大企業としています。

自由に使える金額：支給額は上昇も、自由に使える金額は変わらず

支給予定額のうち、必要経費として引かれる、ローン返済、生活費補填、ボーナス一括払いなどの費用を除いた、自由に使える金額を聞きました。どの金額帯においても、昨年とほぼ変化しておらず、支給額が増えてもすぐにお小遣いには回せない消費者の懐事情がうかがえます。

グラフ：<http://img1.kakaku.k-img.com/images/research/enquete/095/095-2.png>

使い道と平均消費金額：買い物や国内旅行など、手ごろな消費項目に対する金額が増加

昨年と比べると使い道では、上位の顔ぶれとその割合はほぼ変わらず、トップは引き続き「貯金」（75.1%）、次いで「商品・サービスを購入する」（69.6%）でした。金額で見ると、「商品・サービスを購入する」が7.7%増、「旅行・外出をする（国内）」が6.2%増と、買い物や国内旅行といった比較的手ごろな消費項目にお金をかけようとする消費者の意欲がみてとれます。いっぽう、金融商品（投資信託、株式等）の「購入」「補填」が割合・金額ともに落とすなど、金額が大きな消費項目は減少傾向にあります。

【図2 冬のボーナス平均消費金額（複数回答可）】

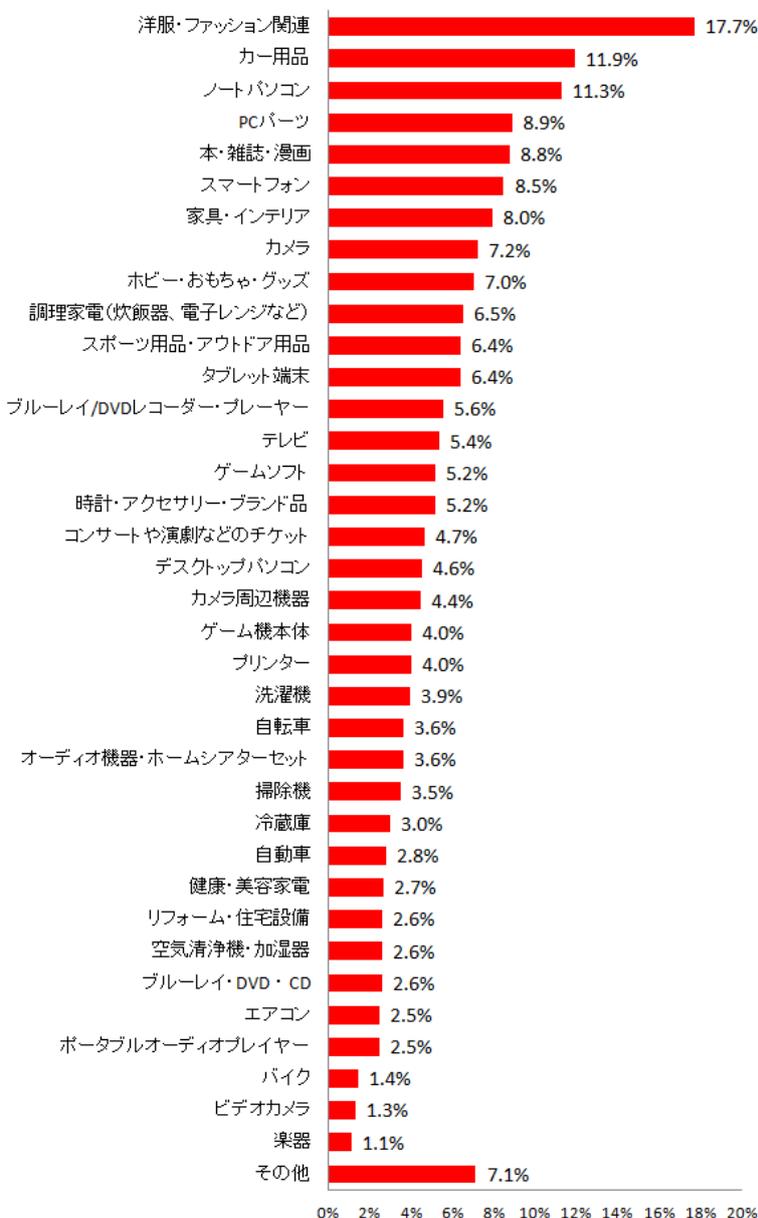
ボーナス消費目的	調査時期	この目的にお金を使う人の平均消費金額	平均消費金額の前年比	この目的にお金を使う人の割合	お金を使う人の割合の増減
貯金	2016年冬	218,452円	5.4%	75.1%	0.7
	2015年冬	207,182円		74.4%	
商品・サービスを購入する	2016年冬	80,152円	7.7%	69.6%	0.2
	2015年冬	74,417円		69.4%	
旅行・外出をする(国内)	2016年冬	58,394円	6.2%	37.9%	-1.4
	2015年冬	54,991円		39.3%	
ローン返済	2016年冬	177,392円	-1.6%	35.6%	-0.3
	2015年冬	180,355円		35.9%	
子供の教育費	2016年冬	150,037円	-0.9%	31.1%	-0.2
	2015年冬	151,351円		31.3%	
金融商品（投資信託、株式等）の購入・外貨預金など	2016年冬	144,146円	-3.9%	15.4%	0.7
	2015年冬	150,000円		14.7%	
旅行・外出をする(国外)	2016年冬	114,380円	-1.1%	10.7%	-0.4
	2015年冬	115,613円		11.1%	
金融商品（投資信託、株式等）の補填	2016年冬	90,656円	-8.9%	9.5%	1.3
	2015年冬	99,522円		8.2%	
新規ローンを組む	2016年冬	136,721円	21.7%	4.8%	0.7
	2015年冬	112,368円		4.1%	

※平均消費金額は、「お金を使う予定はない」と答えた回答者数を除いて算出しています。

ボーナスで購入する商品：「洋服・ファッション関連」（17.7%）、「カー用品」（11.9%）、
「ノートパソコン」（11.3%）に需要が集中

ボーナスの使い道で「商品・サービスを購入する」を選んだ人に、具体的に何を購入予定か聞きました。例年通り、「洋服・ファッション関連」（17.7%）がトップに。昨年よりも増えたのは「ノートパソコン」（11.3%・+2.2ポイント）、「PCパーツ」（8.9%・+1.1ポイント）、「ブルーレイ/DVDレコーダー・プレーヤー」（5.6%・+1.7ポイント）、「ゲーム機本体」（4.0%・+1.5ポイント）など。「ノートパソコン」「PCパーツ」の伸びは、Windows 7世代からの買い替えやSSDの大容量化、「ブルーレイ/DVDレコーダー・プレーヤー」はUltra HD ブルーレイの登場などが影響していると考えられます。また「ゲーム機本体」に関しては、「PlayStation 4 Pro」や「ニンテンドークラシックミニ ファミリーコンピュータ」など注目ハードの発売により購入意欲が高まっているようです。

【図3】今冬のボーナスで購入する商品（ボーナス支給者全体）



昨年冬「購入する商品」結果：<http://kakaku.com/research/report/089/p02.html#mds04>

【まとめ】

今回の推定支給額は62.3万円で、昨年比1.7万円（2.8%）のプラス、今夏比で1.4万円（2.3%）増え、2期連続の増加となりました。昨冬と今夏は停滞気味でしたが、今回はわずかに回復傾向といえそうです。

ボーナスの使い道については、「商品・サービスを購入する」が7.7%増、「旅行・外出をする（国内）」が6.2%増と、買い物や国内旅行といった比較的手ごろな消費項目には、お金を積極的に使おうという消費者の心理が読み取れます。具体的に購入したいものとしては、「ノートパソコン」「PCパーツ」などの価格.comユーザーにとっては定番の商品から、「ブルーレイ/DVDレコーダー・プレーヤー」「ゲーム機本体」など、新製品が注目されているジャンルでも購入意欲が高まっているようです。この冬のボーナス商戦はやや明るい兆しが見えているのではないのでしょうか。

【調査パネル】

調査エリア : 全国 調査対象 : 価格.comID 登録ユーザー

調査方法 : 価格.com サイトでの Web アンケート調査

回答者数 : 2,298 人

調査期間 : 2016 年 11 月 15 日～2016 年 11 月 21 日

調査実施機関 : 株式会社カカクコム

※四捨五入による端数処理のため合計が 100%にならないことがあります。

▼アンケート結果、および過去の調査アーカイブはこちらのページでもご覧いただけます

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

【価格.com サイトデータ】（2016 年 9 月現在）

月間利用者数約 4,502 万人、月間ページビュー約 7 億 5,325 万 PV

<利用者内訳> PC : 2,100 万人 スマートフォン : 2,384 万人 フィーチャーフォン : 18 万人

データの引用・転載時のクレジット表記について

本調査結果の引用・転載の際は、必ずクレジットを明記くださいますようお願い申し上げます。

クレジット表示例

- ・「価格.com」調べ
- ・購買支援サイト「価格.com」が実施した調査によると…